

## 緑の森から本の森へ

原子炉実験所図書掛長 澤 谷 正

原子炉実験所は、京都から約90km離れて、関西国際空港の近くに全国共同利用研究所として、昭和38(1963)年4月に開設されました。国立大学としては、最大規模の研究用原子炉(熱出力5000キロワット)を持ち、敷地面積は、約10万坪です。

敷地内には、開設40周年を迎えた現在も人類未踏?の森や池があり、そこには、野生のいたち、狸、大亀等が生息しており、見慣れぬ樹木がうっそうと生い茂っています。



幹線道路わきには、開設当初からの桜や、メタセコイア、松などの樹木が40年の間に巨木と呼ばれるにふさわしい位に成長し、四季折々の表情をみせています。

特に桜の木は、100本以上ありますので、春の桜の開花時期には、

花吹雪で周辺が淡いピンク色に染まってしまいます。

その敷地内に、各施設が点在しており、図書棟は、事務棟の隣、正門に近い位置、それでいて、緑に囲まれた場所にあります。図書棟の中には、図書室の他に、医務室、会議室などがあり、所内共同の場所と位置付けされています。しかしながら、構内が広いので点在する施設から、少なからず距離があるのが、地理的には短所です。

当図書室の特徴としては、当実験所で行われている研究は、非常に広い分野にわたっているので、所蔵されている図書資料も、数学、物理、化学、生物、医学、環境、工学と広い範囲をカバーしています。当然ながら、原子核、原子力、放射線等に関するものが主体となっています。特徴ある資料としては、IAEA(国際原子力機関)発行の資料は、ほとんどもれなく集めています。その他、創刊より所蔵している雑誌も多くあり、貴重な資料群となっています。当図書室は、国立大学等文献複写受付館になっておりますので、全国各地から文献複写の注文や相互利用の要求が舞い込んできますが、特にIAEAを初め、原子力関係の資料の需要が多いです。

また、窓際には、ロッカーがずらっとならんでいます。その数20本です。中には、当実験所発行のレポート(KUR,TR,PROGRESS等)がぎっしり入っています。これらのレポートの全国内外関係大学、機関などへの発送作業、ならびに出納業務もしています。

なお、ネットワークを京都大学附属図書館と結び、京大として、契約している各種のオンラインジャーナル、データベースは、図書室内はもちろん、各研究室の端末からも利用できるよう整備されています。

近年、科学の発達により、図書室へわざわざ足を運ばなくても、研究室等の端末から、オンラインジャーナルや、全国内外大学等の蔵書検索もできるようになり、冊子体目録や、目録カードもその役割をそろそろ終えようとしている昨今、所内全蔵書を端末から検索できるように、遡及入力を進めています。が、日常の業務の隙間に作業をしているので、なかなか、入力件数が上がらないのが悩みです。なんとかこのスピードを早めたいものです。

閲覧室には、新着展示コーナーがあり、新着雑誌は1週間、新着図書は1ヶ月、展示しています。また、利用者の研究・学習・調査活動に対応できるように、マックとPCの端末各1台、そして、プリンターとスキャナーがセットされています。検索に不慣れな利用者のために検索指導も随時行っています。

カウンター周りには、カラーコピー機、FAX、大型裁断機等が、並んでいます。

また、図書資料の保管については、書庫も狭いですが、古い雑誌等の資料を別室へ保管すると利用に不便な為、書庫東北側に集密書架4段複式4連が19台設置されており、和洋雑誌の1975年以前を中心として、収納しています。

所員及び共同利用者に対する図書室の利用は、オープンであり、勤務時間外は、守衛棟に図書室の鍵を預けていますので、守衛棟から鍵を借りれば、休日及び夜間の利用も可能となっています。

他の利用者(一般)に対しては、あらかじめ連絡をいただければ、勤務時間内に限り、閲覧は可能となっています。

日々、より良い図書室(館)とは何かと言う事を考えつつ、実践しつつ、業務を3人(掛長、掛員、パート職員)でこなしています。

皆様、少々京都からは遠いですが、緑の美しいこの地へぜひ、一度お出でください。特に桜の季節がお勧めです。

(さわや ただし)

